

現場で役立つ 環境分析の基礎 第1版第1刷用正誤表 (オーム社)

頁	行	誤	正
19	図 2.1		縦軸の比重の単位 [g/mL] を削除してください.
22	表 2.4	HGICPAES:Hydride..., 水素化合発生誘導結合プラズマ発光分析法	HGICPAES:Hydride..., 水素化物発生誘導結合プラズマ発光分析法
32	↓8	藤森粘土は電気伝導率 (EC) もほかの2種類の土より多量の塩類が溶解している.	藤森粘土は電気伝導率 (EC) もほかの2種類の土より高く, 多量の塩類が溶解している.
33	表 2.9	*3 溶出量: ... (環境省告示第16号)	*3 溶出量: ... (環境省告示第18号)
35	↓5	汚染土壌は, 汚染されていない「自然土壌+廃棄物 (液状を含む)」という...	汚染土壌は, 「汚染されていない自然土壌+廃棄物 (液状を含む)」という...
39	↓2	Cr (VI) とシアン (Se) については, ...	Cr (VI) とシアンについては, ...
39	↓6	... また Se は酸性にするとシアン化水素...	... またシアンは酸性にするとシアン化水素...
39	図 2.10	2. 溶媒添加 液固比 3/100	2. 溶媒添加 液固比 100/3
46	図 2.11	■炭素抽出	■アルカリ抽出
98	↓ 15 ~ 16	図 4.13 は, Na と K のイオン化干渉による各分析線の強度の変化を示す. 横軸は Na・K 濃度, 縦軸は各分析線の相対強度 (Na あるいは K 濃度が 0 のときの強度を 1 とする) である.	図 4.13 は, Na のイオン化干渉による Ca の各分析線の強度の変化を示す. 横軸は Na 濃度, 縦軸は各分析線の相対強度 (Na 濃度が 0 のときの強度を 1 とする) である.
105	↓ 1, 7, 12, 18 (式中)	k	$1/k$
126	図 5.7	$q = \frac{2eU}{m\omega^2 r^2}$	$q = \frac{2eV}{m\omega^2 r^2}$
149	↓5	試料の導入量が 20mL/分と少ない...	試料の導入量が 20 μ L/分と少ない...
223	↑8	... 試験所内に複数の想定装置が...	... 試験所内に複数の測定装置が...